日本共産党
池田ファンクラブ・ニュース
あした天気にな～れ
132
2012年10月
部内資料
発行責任者　太田　勍（62-5727）
議員連絡先　うすい孝彦（62-5093）
服部 久子（62-4357）

何だった　原発再稼働！
猛暑でも電気足りた

福島第一原発事故後、全停止していた原発について、関西電力大飯原発3、4号基の再稼働を行いました。一昨年並の猛暑にもかかわらず、関電の電力需要のピーク（8月3日）は2682万kW、供給は原発分を除いて最大2946万kWで264万kW、10％もの余裕がありました。政府・関電は国民を脅迫し、だまして強引に大飯原発を再稼働させましたが、その必要はなかったのです。

国民が真剣に手だてをとった結果

このような結果になった要因は何だろうか？電力需要については5月期で関電予測の90％に下がりました。国民や企業などの「多少不便を感じても原発を無くすためなら節電する」という意識の高まりと努力が実ったものと思います。

長野県でも5％の節電目標に対して10％の実績となっています。一方供給は原発以外で他社からの融通、揚水発電などの増で、関電の予測を上回って増加しました。今夏の結果は原発が無くても電気は足りる、今すぐ原発を無くすことが出来ることを、事実で証明しています。

脅しとだましの手口は

野田首相は大飯原発の安全性について「ストレステストの結果安全性に問題がない」「福島第一原発の事故をふまえた最新の知見に基づき安全であると判断した」と説明しました。原発事故の実態は、強烈な放射能で近づくことさえ出来ず、全く不明です。最新の知見をいうなら原発に潜り込んで調べてからにしてもらいたいものです。

更に大飯原発構内に活断層が走っていると指摘について、これから調査するということですが構内に活断層があれば原発の設置は禁止であり、これも話があべこべです。

また政府は原発再稼働をしなければ、電力不足が発生し経済と国民生活に重大な影響を及ぼすとし、関西電力も「電力不足による計画停電もあり得る」と全世帯に通知し脅迫しました。取るべき手だてを取らず、国民の世論と意識の高まりを見くびった態度と言わねばなりません。

真のネライは何か

原発無しで夏場を乗り切れるということになれば、今後原発の再稼働は不可能となる。このことを最も恐れ、しゃにむに再稼働を強行したのだと考えられます。

電力料金には開発促進税が1kwあたり数10銭含まれており、大部分が原発開発関連に使われてきました。これを再生可能な自然エネルギーの研究・開発中心に使い、更に安定した供給体制を築き、原発をなくす運動を大きく拡げていきましょう。

コラム 有明

障害者自立支援法が施行されて6年、障害者自身が当事者の目線から社会参加や自立などの課題について話し合う「当事者部会」が設置されることになり、大町総合福祉センターで第1回目の会議が行われた。▼合計24の障害者団体やボランティア団体に呼びかけたとのことだが、参加者は8名で、障害者本人の参加は2名に過ぎなかった。▼息子が16歳から26年間引きこもって外に出ないと話すお母さん、自身は障害者を旅に連れ出す「ひまわり号」のボランティア活動をしているという。▼「手をつなぐ育成会」の役員をされている方は夫と子ども2人が障害者だと言う。「もう開き直っています」と苦しさを隠して話す。自分が大変な状態にあるからこそ、人のためにという気持ちが持てるのかもしれない。▼親亡き後、すでに若くはない子ども達がどう生活していくのか。共同で生活できる場所や、生活支援がいますぐ求められている。▼これから何回か会議を開き具体的方向を話し合うとのこと。当事者の参加が増えて欲しいと願っている。

連載　町中訪問記③

池田町図書館
30年の歴史　町民の読書文化のより所

（牛越邦夫）

池田町図書館は、今年ちょうど創立30周年を迎えました。場所は役場南側の八幡神社の森に面した静かな環境にあります。併設されている「浅原六郎文学記念館」の館長も兼ねる小澤洋治さんにお話を伺いました。

図書館の目的・歴史をお聞かせください

図書館法に基づき設置されています。地域の教育・文化に寄与することが第一の目的ですね。また生涯学習の位置付け、情報センター的な役割も持ち、池田町だけでなく他町村の方にも資料等の提供を行っています。

池田町図書館は昭和57年に開館しました。それまでは公民館内に図書室があったと聞いています。開館当時の蔵書は1万2000冊でしたが、現在は6万7000余冊となっており棚も書庫も満杯状態です。

平成11年から「図書館まつり」を始め、毎年続けています。14年から「図書館管理システム」が稼働、21年からインターネットによる検索が出来るようになりました。

当館の特徴は何ですか

そうですね、2階児童室を利用して、講演会、人形劇、工作教室、落語会、読書ボランティアによる読み聞かせなど年間20回ほど行事を行っています。小中・養護学校での読み聞かせの出前活動も評判です。

池田町図書館

平成13年からブックスタート支援活動を実施しています。やすらぎの郷で、一歳未満のお子さんが初めての本との出会いを、お母さんが行う時の手助けをしています。将来読書好きになって、すばらしい本と巡り合ってほしいと願いながら行っています。

23年からセカンドブックプレゼントをスタートさせました。小学一年生になる時、一冊の本を50ほどのリストから希望したものを、町が購入してプレゼントする活動です。

中学生が素晴らしいお手伝いをしてくれています。学校の図書委員が幼い子供に読み聞かせをする、科学部員の生徒は工作教室、美術部員はペンダントや玩具作りを担当するなど、図書館から輪が広がっています。

何か苦労されていることはありますか

貸し出しの返却期間を守っていただきたいということです。読みたい方の迷惑になりますし、長期に返却されないと電話をかけ、ハガキで督促もしなければなりません。（牛越＝私もついウッカリ延滞してしまうことがあり、反省です。気を付けます）

しかし利用者の皆さんのマナーは大変いいと思っています。

蔵書点検を年1回行いますが、行方不明の本（借り出さず持ち帰ってしまう本）は、30～100冊未満です。他の図書館からうらやましがられている所です。

現在約4000人の方が登録されており、年間延べ1万人・3万5000冊が貸し出されています。図書館をもっと身近に感じてもらいたいと、さまざまな行事を計画しているのですが、ちょうと来館者が少ないです。多くの人に楽しんでもらいたいのですが・・・・

「てるてる坊主の館」についてお聞きします

図書館と同時に開館しました。池田町出身の浅原六郎さんの業績を記念して建てられたもので、町のシンボルの一つです。昨年までで7万余人が訪れています。一時期年間1000人を割ったこともありましたが、「てるてる坊主アート展」作品を館内展示したこともあり、年間1400人ほどに回復しつつあります。もう間もなく今年の出品作品が展示されますので、ぜひお出かけください。

お話をお聞きして

小澤館長は少ないスタッフでやり繰りしている苦労は少しも見せず、「本を借りるだけでなく、新聞や雑誌を見たり勉強をするなど、図書館を気軽に利用してほしい」と中学生が勉強する様子を見ながら静かに語っていました。